

## 国際英語学科

### 国際英語専攻

#### 《学科の理念・目的》

国際英語学科は、国際共通語としての英語とその言語文化の広がりをも専門的に考究し、英語の実践的かつ高度な運用能力と発信力を身に付けることを通して、世界の諸地域や国際化が進む日本国内の各地域で社会の発展に貢献できる人物の育成を目的とする。

(東京女子大学学則 第4条第2項)

国際共通語としての英語の位置は今後も揺らぐことはないでしょう。また、日本という国の相対的な位置の変化を考えると、今後、世界を相手に生きていく必要はますます強まるに違いありません。

そうした国際状況を踏まえ、国際英語学科国際英語専攻には、イングリッシュ・スタディーズ・コース、英語教育コース、英語キャリアコースの3つのコースを設け、自由な選択により学生が自らデザインするカリキュラムとしました。また、原則2年次後期の半期を英語圏の大学で海外研修（スタディ・アブロード）を行うことにより、本学での学びを海外での経験に基づいて相対化し、位置づけることを可能にします。

こうした複層的な学びを通して、国際英語学科では国際社会のあらゆる場で貢献できる女性を育てます。英語でコミュニケーションできる力をつけることはもとより、英語による文学や背景となる文化、言語としての英語の特徴、英語を第二言語として教える理論とスキル、さらには日本文化を英語で学び、その上で通訳・翻訳などを含む様々な状況で英語を使えるスキルを身につけることを目指しています。

#### 《カリキュラムの特色》

国際共通語としての英語とその言語文化の広がりをも専門的に考究するとともに、国際的な視野に立った実践的教育を行います。専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、1年次から4年次まで必修の演習科目を軸にしたカリキュラムになっています。英語力については、1年次から3年次までspeaking、listening、writing、readingの訓練を行います。専門的な学習としては、イングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリアの3つのコースがあります。

〈イングリッシュ・スタディーズ・コース〉では、英語文学・文化研究、英語学について学びます。英語文学・文化研究は詩、演劇、小説、批評など、実際に作品を読み、作家や時代・文化的背景について学びます。英語学は、統語論、意味論、語用論、英語史、社会言語学、音韻論など、幅広く言語としての英語について学びます。

〈英語教育コース〉は、英語教育学、第二言語習得論、児童英語教育を主な3本の柱としています。英語教育学では中高生などに英語を教えるのに必要な英語の指導法を学んだり、英語の授業を英語で教えらるる英語力を身につけたりします。第二言語習得論は英語の学習者がどのように英語を身につけるのかを学びます。さらに、児童英語教育では小学生などの子供に英語が教えらるるようになることを目標としています。

〈英語キャリアコース〉は、翻訳、通訳、プロフェッショナル・イングリッシュを3本の柱とし、実践的英語力とその応用力を身につけることを目標とします。翻訳と通訳では、翻訳や通訳に関する研究（翻訳学、通訳学）を行うとともに、翻訳や通訳をするための実践的な知識やスキルも学びます。プロフェッショナル・イングリッシュでは、国内外の国際的現場で英語で発信できる力を養います。実際に使える力を身につけるため、実習を多く取り入れています。

具体的には、次のような特長があります。

- ①英語力を高める緻密な教育プログラム。英語を母語とする教員による実践的な授業  
英語を理解し、英語で自分の考えを表現できる力をつけます。例えば、1年次から3年次まで英語を母語とする教員による必修の授業科目を設け、年次進行に従い積み上げていきます。基礎から鍛え、高度な読解力や表現力を育成していきます。
- ②充実した少人数編成の授業による発表能力を重んじたきめ細かい指導  
演習形式の授業では、少人数編成のクラスで、きめ細かい指導を行い、一人ひとりが考える力を養います。
- ③異文化としての英語圏の文化の理解を深める多様な講義・演習  
英語圏の文化の多様性を知るために、英語による詩、演劇、小説などの文学、映画などの大衆文化、そして文化の土台となる英語を学びます。
- ④必修の海外研修（スタディ・アブロード）  
生活言語だけでなくアカデミックな場でのツールとしての英語を実践的に運用する能力を高めます。国際英語学科の学びに関連する専門的知見を英語圏で直接学ぶことを通して、国際英語学科での学びをより豊かにすることができます。
- ⑤英語で書く卒業論文の達成感、即戦力を目指すFinal Presentation  
各分野での研究成果を発表する能力の育成も重視しています。英語による卒業論文作成、あるいは英語によるプレゼンテーションが目標です。

## 《履修法の助言》

### ■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。

1年次では、まず、共通に土台として身につけるべき英語力の養成と基礎的専門知識の習得を目指します。前期の「1年次演習（国際英語）」により、国際英語にかかわる基礎的な知識やスタディ・スキルを習得するとともに、学問に誠実に向かい合う心構えを、演習形式によって確実に身につけます。後期の「Study Abroad 基礎演習」ではスタディ・アブロードで何をどのように学んでいくか、自発的に学びます。「First-Year English Seminar I・II」は、英文の構成力および英語によるコミュニケーション能力を身につけ、英文執筆能力のレベルを上げることを目標とします。English Studies、英語教育、児童英語教育、第二言語習得、Professional English の各入門演習では英語圏文学・文化の読み解き方、英語学、英語教育、児童英語教育、第二言語習得、翻訳、通訳、実務英語に関する基礎的な知識を演習形式の授業で学びます。これらの科目を履修することで、幅広い知識と教養を身につけるための基礎的な英語力をしっかりと培い、専門分野を学ぶ基礎を身につけます。

2年次では、後期の海外研修（スタディ・アブロード）にそなえ、前期に英語力をさらに総合的に高めるとともに、引き続き基礎的専門知識の習得を目指します。「英語グローバル人材論」では、日本および海外諸地域におけるさまざまな職業や社会的活動を念頭に、現在、英語がどのように活用されているのかについて、その状況を的確に理解し自らの資質を生かせる実践的なキャリア形成を具体的に考える契機とします。《基盤演習》「Second-Year English Seminar」では、1年次の「First-Year English Seminar I・II」で得たスキルをふまえ、テキストを理解し分析する能力と、理解した内容について短い学術的なエッセイを書く能力の向上を図ります。「Research Project for Study Abroad」では、後期からのスタディ・アブロードによる勉学を遂行するにあたって必要となる英語による表現能力や海外の大学での実践的状況を想定した語学力の運用方法を養います。また、2年次から《特殊講義》や《発展演習》の一部を履修することが出来ます。「Classroom English 入門演習」「翻訳入門演習」「通訳入門演習」では、初歩的な実践を通じて、Classroom English、翻訳、通訳に関する知識とスキルを習得します。1、2年次で習得した基礎的知識を基にして、各自が専門に学びたいコースを考えます。

3年次では、「卒業論文」または「Final Presentation」に備え、イングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリア、それぞれのコースの学習を深めるため、全員が「3年次演習（国際英語）Ⅰ・Ⅱ」に所属し、それぞれのコースの基本的な研究方法を学びます。同時に、「Third-Year Research WritingⅠ・Ⅱ」で、2年次の「Second-Year English Seminar」を発展させた学術的エッセイ・ライティングを行い、高度な論文作成のための英語表現、論文構成を学び、英語コミュニケーション能力を高めます。《特殊講義》や《発展演習》では、引き続き幅広い知識を習得するとともに、特定のテーマについての知識と考察を深める専門的学習を行います。

4年次では、各自の研究対象を見定め、全員が「4年次演習（国際英語）Ⅰ・Ⅱ」に所属し、4年間の学習の集大成として、英語による「卒業論文」作成または「Final Presentation」に臨むこととなります。「卒業論文」または「Final Presentation」では、1年次から培った英語の読解力および表現力を用いて、論文作成またはプレゼンテーションを行います。これには多大な労力、集中力および時間が必要です。力を尽くして、主体的、積極的な姿勢で取り組むことが望まれます。

■全学共通カリキュラムとの関連について

**キリスト教学科目**：英語文学・文化の精神風土の理解を深めるために、履修を勧めています。

**第一外国語科目**：専門分野の研究に必須となるので、種々の選択科目の履修を推奨しています。

**第二外国語科目**：特に言語を指示しませんので、自分の関心に従って履修してください。

**ギリシア語・ラテン語科目**：西洋古典の知識も必要となる専門分野もあるため、学習を勧めています。

《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

国際英語学科国際英語専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目 (◎必修科目 ○選択必修科目 △選択科目)
1 年 次	大学で学ぶための基礎知識、スタディ・スキル、学間に誠実に向き合う態度を身につける。	◎1年次演習(国際英語)
	スタディ・アブロードを遂行するために必要な国際英語学科の各学問領域に関する基礎知識を身につけるとともに、英語による表現能力を養う。	◎Study Abroad 基礎演習
	英文の構成力および英語によるコミュニケーション能力を身につける。基礎的な英文執筆能力の向上を目標とする。	◎First-Year English Seminar Ⅰ・Ⅱ
	イングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリアの諸分野に関する基礎的な知識を学ぶ。	○《基盤演習》の入門演習の各科目
	留学や国際的なキャリアを構築する上で大切になる多様な価値観の理解、リーダーシップやコミュニケーション能力、分析力の構築を目指します。	△国際英語と女性の生き方

2 年 次	日本および海外諸地域におけるさまざまな職業や社会的活動を念頭に、現在、英語がどのように活用されているのかについて、その状況を的確に理解し自らの資質を生かせる実践的なキャリア形成を具体的に構想する。	◎英語グローバル人材論
	国際英語学科の各専門分野のテキストを読んで、理解し分析する能力と、理解した内容について論じ、短い学術的なエッセイを英語で書く能力を向上させる。	◎Second-Year English Seminar
	海外研修(スタディ・アブロード)による勉学に際し研究課題を明確に理解し、これを探求する学問的手法を身につけるとともに、英語による表現力や語学力の運用方法を海外の大学での実践的状况を想定して身につける。	◎Research Project for Study Abroad
	<b>【2・3年次共通】</b> イングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリアの諸分野に関する知識を学ぶ。	○《基盤講義》の基礎論の各科目、言語の多様性と普遍性A・B △異文化理解A・B、Japanese Culture & Literature
	スタディ・アブロードによる勉学の成果を検証する。 ＜スタディ・アブロードの目的＞ ・異文化に身を置き直接体験し理解することで視野を広げる。 ・英語の背景を成す文化に直接触れてより深く理解する。 ・英語で考える習慣を身につける。 ・国際英語学科での勉学をより実質的なものとし、国内外を問わず、英語を実践的に運用できる力を養成する。 ・国際英語学科での学びに関連する専門的知見を広めるために、英語圏で直接学び、グローバルに発揮できる力を養う。	○Study Abroad English ○Study Abroad Academics
3 年 次	資料を収集する方法や論理の組み立て方など、それぞれの専門分野の基本的研究方法、論文作成の技法を学ぶ。	◎3年次演習(国際英語) I・II
	2年次に学んだ英文の学術的エッセイ・ライティングのスキルをふまえ、高度な論文作成のための英語表現、論文構成を学び、学術的なエッセイを書く能力を向上させる。	◎Third-Year Research Writing I・II
	<b>【3・4年次共通(2年次からの科目も含む)】</b> それぞれのコースの専門領域について理解を深め、また方法論について学ぶ。幅広い知識を習得するとともに、特定のテーマについての知識と考察を深める専門的学習を行う。	○《特殊講義》の英語文化リソース論、テーマ研究の各科目 ○英語文学・英語文化・英語学・英語教育・児童英語教育・第二言語習得・翻訳・通訳に関する講義および演習の各科目 △比較文化A・B、表象文化A・B △時事英語、Critical Thinking
4 年 次	学生が自らの知的関心に沿って研究テーマを設定し、資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって仮説を実証し得られた結論を説得的に表現する、という一連の営みを通じて、学士課程での集大成として、英語による卒業論文、または Final Presentation を完成させる。	◎4年次演習(国際英語) I・II ◎卒業論文 又は Final Presentation